

都道府県名	秋田県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	鹿角市立花輪小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	3	3	3	3	2	21	29
児童数	93	108	82	108	103	90	6	590	

研究の概要

1 主題（テーマ）

「豊かな学びをつくる子どもの育成」 ～ 算数・音楽・家庭科を中心として ～
--

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年算数（子どもの理解度に差が生じやすい教科であることと、本校がTTによる指導改善を図ってきたこれまでの研究を生かしていくことができるため） ・全学年音楽（3～6年に教科担任制を取り入れ、多様な学び方を工夫できるため） ・5・6年家庭（問題解決的な学習を進め、学校栄養士とのTTや専門的な人材を活用した指導を工夫できるため） ・平成16年度は国語・社会・算数・音楽（これまでの研究成果と児童に対する実態調査の結果から、教科の枠を広げ、基礎・基本のより確実な定着を図るため）

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 「豊かな学びをつくる子どもの育成」 ～ 算数・音楽・家庭科を中心として ～ 仮説 (1)自分らしさを発揮し、学びを楽しくできる指導方法を工夫することによって、自分なりの方法で豊かな学びをつくることができるのではないか。 (2)一人一人のよさや可能性を生かす評価や支援を工夫することによって、子ども一人一人が自らの学びを高めていくことができるのではないか。
	研究内容・方法 (1)個に応じた指導方法や指導体制 ・指導形態や学習形態の工夫 (2)学び方を学ぶ問題解決的な学習 ・単元構成を工夫し、学習課題を明確にした指導 (3)一人一人に確かな力を付ける評価と指導の一体化 ・評価規準の作成と到達状況の見取りの工夫 ・支援に生かす座席表や評価補助簿，自己評価の工夫 (4)基礎・基本の定着を図る指導 ・発展的な学習や補充的な学習 (5)多様な学び方を学ぶ教科担任制の導入（3，4，5，6年の理科・音楽） (6)専門性を生かした多様な人材の活用（家庭科における学校栄養士とのTT） (7)児童の実態把握 ・標準学力検査や意識調査，秋田県学習状況調査，算数学習状況調査の実施

平成15年度	<p>テーマ 「豊かな学びをつくる子どもの育成」 ～ 算数・音楽・家庭科を中心として ～</p> <p>仮説 (1)自分らしさを発揮し、学びを楽しくできる指導方法を工夫することによって、自分なりの方法で豊かな学びをつくることができるのではないか。 (2)一人一人のよさや可能性を生かす評価や支援を工夫することによって、子ども一人一人が自らの学びを高めていくことができるのではないか。</p> <p>研究内容・方法 (1)個に応じた指導方法や指導体制 ・少人数指導の充実 ・理解や習熟の程度に応じた学習材の工夫 (2)学び方を学ぶ問題解決的な学習 ・単元構成や学習課題設定の工夫 ・自力解決や学び合いの場の支援 (3)一人一人を大切に評価と指導の一体化 ・評価の方法や評価場面を明確にした指導 ・支援に生かす座席表や評価補助簿と学びを高める自己評価の工夫 (4)多様な学びの場を工夫する教科担任制の充実 ・音楽専科と学級担任によるTT ・一人一人のよさを生かし、表現力を高める学習材の工夫 (5)専門性を生かした多様な人材の活用 ・家庭科における学校栄養士とのTT ・地域の人材を活用した食の指導、伝統的な音楽の指導 (6)基礎・基本の習得状況の把握 ・鹿角郡市NRT(5・6年)、全学年CRT学力検査、秋田県学習状況調査、意識調査等の実施と研究の成果・課題のまとめ (7)系統的な学びの構想を考える小・中の連携(花輪第一中学校区研究会) ・ゲストティチャーとしての授業参加(平成15年6月10日) (8)研究成果の公開と研究のまとめ ・中間公開研究会 平成15年10月9日(木)</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「豊かな学びをつくる子どもの育成」</p> <p>仮説 (1)自分らしさを発揮し、学びを楽しくできる指導方法を工夫することによって、自分なりの方法で豊かな学びをつくることができるのではないか。 (2)一人一人のよさや可能性を生かす評価や支援を工夫することによって、子ども一人一人が自らの学びを高めていくことができるのではないか。</p> <p>研究内容・方法 (1)個に応じた指導方法や指導体制の充実(少人数指導, TT) (2)発展的な学習や補足的な学習, 基礎・基本の定着を図る学習材の開発 (3)支援に生かす評価補助簿と学びを高める自己評価の工夫 (4)教科担任制を効果的に生かした指導(3.4.5.6年理科・音楽) (5)専門性や地域の人材を生かした基礎・基本の定着を図る指導 (6)確かな学力向上に向けた小・中の連携 (7)研究のまとめ, 仮説の検証と研究の評価</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の教科研究部を増やし、国語、社会、算数は学年を中心にして、理科、音楽は専科を中心に進める。今年度までの少人数指導部は、研究実践部に変更する。

平成15年度の成果及び課題

1 研究の成果

- (1) 子どもの実態や学習内容に応じて、学級や学年の習熟度別学習や課題別、コース別等の少人数学習やTTによる学習を進め、個に応じたきめ細かな指導を積極的に行ってきた。
 - ・秋田県学習状況調査結果によると、算数の全県比は、4年+7.2%、5年+0.8%（14年度は+2.6%）、6年-2.6%（14年度+3.2%）である。
 - ・平成15年4月実施の5・6年算数NRT検査によると、5年は昨年度より+3.4%、6年は-2.0%である。5年は、下位層の人数が減り、上位層の人数が増加している。
 - ・平成15年12月実施のCRT検査では、全学年が全国達成率を上回っている。特に4年は、+11.3、3年は、+6.2を示し、数学的な考え方や知識・理解の観点が大きく向上している。これらから、全体的に研究の成果が出てきていると考える。
- (2) 身近な学習材を取り上げ題材名を工夫して、学習課題を明確にし、問題解決的な学習を進めることによって、主体的に学ぼうとする子どもの姿が見えてきた。また、自力解決や学び合いの場を重視した指導を進めたことで、子どもの課題解決に向けてのねばり強さ、自ら考え、学ぼうとする力が伸びてきた。他のよさに学んだり、教え合ったりする子どもも多くなってきた。
 - ・秋田県学習状況調査では、全体の中では、「分からないことでも自分の力で答えを見付けられるように勉強したい」と答えている子どもが多い。
 - ・学習場面での意識調査（平成15年7月実施）によると、「難しい算数の問題でも、一人で解いてみようとする」や「算数の問題が分からないとき、何度も読み返したり、絵や図にかいたりする」が、昨年度に比べ全体的にポイントが上昇してきている。
 - ・前年度は関心・意欲・態度が低かった高学年は、CRT検査では、5年+7.2、6年+5.8ポイント全国を上回り、秋田県学習調査結果では、5年は、算数が好きな子どもが多くなり、県を+22.1%上回っている。
- (3) 子どもの実態や単元で身に付けたいことを明確にし、評価規準に基づいて、評価補助簿や座席表を活用したことによって、ねらいの達成状況やつまづきを的確にとらえ、適切な支援を工夫できるようになってきた。また、自己評価や相互評価を取り入れたことは、子どもの学習の様子を把握し、補充的な学習や発展的な学習へとつなげたり、次時の指導に生かしたりでき、子ども自らの学びを高める上で効果的であった。
- (4) 教科担任による音楽科では、学級担任とのTTを取り入れ、題材構成を工夫し、児童のカルテを活用することで、基礎・基本の定着を図るきめ細かな指導ができ、個のよさを生かした指導を進める上で効果的であった。
 - ・秋田県学習状況調査では、音楽が好きな子どもは、全県を大きく上回っており、4年+4.1%、5年+18.3%、6年+15%である。理由としては楽しいが一番多い。
- (5) 家庭科では、学校栄養士とのTTや地域の人材を活用した食の指導を進めることによって、子どもの日常生活での食に対する興味・関心が高くなり、問題解決の能力を高める上でも効果的であった。

2 今後の課題

- (1) 平成15年度秋田県学習状況調査の結果では、「良い成績をとれるように勉強したいと考えている」子どもが比較的高いのに比べ、「学校の勉強がよく分かる」は、4年は-2.7%、5年-3.9%、6年-7.4%と全県を下回っている。また、研究教科である家庭科でも、「勉強が楽しくない」と答えた子どもが、5年-1.8%、6年-9.6%と全県を下回っていた。これらのことから、子どもがより主体的に学んで達成感を味わえるようにすることや学んだことを着実に身に付け、生活に生かすことができる子どもを目指した指導を進めなければならない。そこで、次年度は、教師全員の指導力を高める研究を進める。
これまでの研究を通して課題となっている次の内容の指導改善に力を入れる。
一人一人の個人差を明確にとらえ、効果的な学習集団編製の仕方と子どもの適性に対応する指導方法を工夫し、少人数指導やT Tの指導の充実を目指す。
学習課題を明確にし、基礎・基本が確実に身に付く指導を工夫し、子どもが課題解決の達成感を味わい、表現力や問題解決能力が着実に身に付くようにする。
子どもの変容をとらえた評価の仕方と、一人一人への適切な支援を工夫し、子どもが自らの学びを振り返り、それを新たな学習に生かし、確かな学力が身に付くようにする。
発展的な学習や補充的な学習を効果的に取り入れ、一人一人に確かな学力を身に付ける。
- (2) 音楽科の教科担任制導入の成果を踏まえ、専門性を生かした人材や地域の人材を積極的に取り入れた効果的な指導を工夫する。
- (3) これまでの研究成果を国語や社会、理科の教科に広げ、より一層基礎・基本の定着を図ることができるように、学年中心の校内研究に改め、教師の指導力向上を目指す。
- (4) 学力検査や秋田県学習状況調査等の結果を、より効果的に指導改善に生かすことができるような分析を行い活用する。

学力把握のための学校としての取組

- 1 定期的な学力調査の実施
 - (1) 平成15年4月 5・6年全国標準診断的学力検査N R Tの実施
 - (2) 平成15年7月、4・5・6年秋田県学習状況調査を実施、比較・分析
 - (3) 平成15年12月、全学年標準学力検査(C R T)の実施
- 2 学習場面における児童の意識調査の実施
 - (1) 平成15年7月、全学年実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 中間公開研究会の開催実績
 - 日時 平成15年10月9日(木)
 - テーマ 「豊かな学びをつくる子どもの育成」～算数・音楽・家庭科を中心として～
 - 対象 秋田県内フロンティア校 鹿角都市内小中学校
- 2 H P 作成中
- 3 公開研究会の開催予定
 - 日時 平成16年11月12日
 - テーマ 「豊かな学びをつくる子どもの育成」 公開教科～国語、社会、算数、音楽
 - 対象 秋田県内フロンティア校 鹿角都市内小・中学校

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	